

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和7年度学校評価 中間評価

学校名	唐津市立湊中学校		
-----	----------	--	--

1 前年度 評価結果の概要	・ラーニングマウンテンを活用し、単元の見通しと振り返りをさせている教師は100%だったが、振り返りの方法や時間の確保に課題がみられた。 ・道徳の授業においては75%の教師が「考え、議論する道徳」を実践していた。 ・「生活アンケート」を通して、生徒は頑張ったことや頑張っている人を紹介したり、気になる生徒への迅速な対応を行うことができた。 ・管理職・研究主任・ICT推進リーダーが連携し、校内研修においてICTの効果的な活用について周知し授業等で実践したり、働き方改革につなげることができた。		
2 学校教育目標	感謝・自立・挑戦		
3 本年度の重点目標	1. 「出番・役割・承認」の機会を通した温かな雰囲気による学校生活の充実 2. 道徳教育・進路指導・キャリア教育の充実による進路実現 100% 3. わかる授業づくりの実践と家庭学習の充実による学力の向上		

4 重点取組内容・成果指標			
(1)共通評価項目			
	重点取組		具体的取組
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)	
●学力の向上	○主体的に学習に取り組む生徒の育成 ○家庭学習の充実	○ラーニングマウンテンを活用して単元の見通しと振り返りを全教員(100%)実施する。 ○毎日の家庭学習を1時間以上する生徒の割合を75%以上	・校内研究の取組を実践し、年に2回授業公開して、湊中スタイルを確立する。 ・発達段階や能力に応じた学習内容に取り組ませたり、家庭学習の習慣化を図るためにICTを使ったe-studyの活用や自学のやり方等を工夫する。
●心の教育	●生命を尊重する考え方を基本として、思いやりの心、社会性、倫理観、正義感などを涵養し、豊かで強い心と高い人権意識を身に付けさせる教育活動を推進する	○道徳の授業における「振り返り」のアンケートや人権講話への感想等において、肯定的な回答をする生徒の割合が70%以上をめざす。	・各学年担当持ち回りで、年間計画に沿って全ての教職員で道徳の授業実践に寄与する。 ・道徳に関するアンケートや振り返りシートの取り組みを実施する。 ・全生徒が人権作文の作成に取り組む。
	●生徒と教師が一体となって、規範意識の向上に努め、いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実を図ると共に、思いやりの心と一人一人を大切にする校風の育成に努める。	○学校全体でいじめを「許さない、見逃さない」指導の徹底を図るために、生徒への生活アンケート等において(いじめの定義やいじめの防止等のための取組を含む)、心の教育推進満足度70%以上達成を目指す。	・月末に全校生徒に「生活アンケート」を行い、生徒の学校生活を把握し、問題行動やいじめの早期発見と対応に務めると共に、生徒の日々の言動に対して注意深く見守り、情報交換と対応をしていく。
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。 ●行事等での出番を増やし、承認することで自己肯定感を高める教育活動	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した生徒80%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした生徒80%以上	・諸行事等で活躍の場を増やし、「じぶんログ」のコメントや学級通信で紹介したり、自己肯定感を高めさせる。 ・高校説明会や職業講話、職場体験、日常の進路指導等を通して、生徒の進路意識を高める。
●健康・体づくり	⑥「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」 ⑦安全に関する資質・能力の育成 ⑧「健康を考えて行動できる能力の育成」	③「健康に良い食事をしている」児童生徒80%以上 ④「交通安全に気をつけて生活をしている」児童生徒80%以上 ⑤「健康は何より大切だ」「保健で学習したことを、自分の生活に活かしている」と答えた児童生徒80%以上	・9割以上が「朝食を食べている」と回答している。 ・6月に「交通安全教室」を実施したり、自転車点検、特にブレーキ点検や通学路に関するアンケートで不慣れな場所があると関係機関に連絡をして対応している。 ・家庭科の授業や給食時間を活用した食に関する指導を行う。
	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守。 ○月の時間外在校等時間が45時間未満の職員の割合を80%以上にする。 ○部活動の複数顧問により負担が軽減されていると回答した教員80%以上 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上
○会議・研修の精選		○ICTの活用とチームによる学校行事の計画を行うことで会議等の時間を昨年度より5分短縮する。	・年度当初に、職員の共通理解と共通実践を確認し、学校行事等についてはチームを編成し早めに計画策定を行う。
●特別支援教育の充実	○個々の生徒の障碍の状態等に応じた授業内容や指導方法の工夫を計画的・組織的に行う。全職員への周知徹底。	○生徒理解に係る、生徒の実態と支援の手立てについてのケース会議を学期に1回以上。(生徒指導との連携)	・個別の教育支援計画や個別の作成、関係機関との連絡調整、スクールカウンセラーの活用、職員研修の実施。
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目			
	重点取組		具体的取組
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	
○主体的に活動できる生徒の育成	◎各専門部の充実と地域や社会貢献活動への参加、校外を通じた他校との交流	◎地域や社会貢献を通して、自己有用感や達成感を得られた生徒や教職員80%以上 ◎「各部署委員会や体験活動を充実させている」と肯定的な回答をした保護者80%以上	・生徒会活動やボランティア活動、地域活動への積極的に参加するような呼びかけや活動の工夫をする。 ・行事活動を通して主体性や社会参画意識を高める。
○個別最適な学び	○ICT利活用	○校内タイピング検定合格者60%以上	・教師は教科の単元の中でICTを用いた授業計画を行う。 週1回、朝読書の時間にタイピング練習をし、年に数回検定を実施。

●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望	・ ・ ・
--------------------	-------------